



令和6年度 宿利原小学校だより

宿っ子 11月号



学校のホームページは上のQRコードからお入りください



実りの秋にふさわしく

校長 濱田 直子

今年は秋の訪れが遅いような気がしますが、もう11月に入り読書の秋、芸術の秋、スポーツの秋、味覚の秋・・・、何もかもが充実する季節です。学校では、「かごしまの教育」県民週間として、1・5・6・9日には学校自由参観，1日には長寿会の皆様とのふれあい活動（昔遊びでの交流）とお茶会を開催し、たくさんの方に学校の様子を知っていただきました。6日には、町音楽会にも参加することができたくさんの声援をもらいました。



昔遊びとお茶会の様子



長寿会のみなさんと一緒に

また、9日の「収穫祭」では、本年度収穫したもち米を使って「もちつき」と「餅の振る舞い」を行うことができました。お忙しい中に多くの皆様に来校していただき、楽しいひとときを共有することができました。県民週間は終わりますが、これからも気軽に学校に足を運んでいただければ幸いです。



音楽発表会の様子



みなさんに振る舞いの餅でおもてなしをしました。

さて、話は変わりますが、毎年この時期になるとノーベル賞の受賞者が発表されます。このニュースは大きな話題となり、全世界の注目を集めます。これまで受賞した日本人の子どもたちに向けてのメッセージには、ある共通点を感じます。それは、「いろいろなことに興味や関心を持ってほしい」と言うことです。どんなことでもいい、これは何だろう、どうしてこうなっているのだろう、と疑問を持つ、そこからすべてがスタートするということです。そしてそれは、人が関心を示さない、だれもやらないようなことであればなおさら価値があるとも。そして、「いろいろなことに挑戦して欲しい」ということです。学校の勉強はもちろんですが、習い事やスポーツ、そして遊びもです。子どもの頃の体験に無駄なことはない、すべてが将来に向けての考え方の基礎になるということなのです。

宿利原小の子どもたちも、今後ともいろいろなことに挑戦しながら自分の可能性を伸ばし、活躍をしてくれることを願っています。